



海外生活 エッセー

北京事務所

外から見る中国、内から見る中国

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 羽根 実咲 (長野県派遣)

中国での暮らしと聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか。個性的かつ多様な民族性、歴史ある文化…さまざまな連想ができるでしょう。実は私は、中国に対してある種の固定観念にとらわれていました。しかし北京で暮らし始めてから約半年が経ち、外（日本）から見る中国と内から見る中国には大きな違いがあると気づきました。今回は、そのきっかけとなった出来事を2つ紹介します。

→ 紺碧の空が広がる美しい北京

2020年9月に訪中してから、北京の秋と冬を過ごしましたが、雲ひとつない青空を目にする日がとにかく多く、それまで中国に対して抱いていた大気汚染のイメージが少し改善されました。

実際、2021年1月6日の北京市生態環境局の発表によると、2020年のPM2.5の平均濃度は1m³当たり38μg（マイクログラム）だったことが明らかになりました。中国国家基準の35μgまであと少しというところまで改善されたこととなります（2019年は42μg）。国家都市環境汚染制御技術研究センターの職員によれば、北京のエネルギー消費は現在、97%以上を電気などのクリーンエネルギーが占めており、2020年の石炭の年間消費量は2000年の2,800万トンから200万トン以下へと大幅に減少したそうです。環境改善に力を入れている中国の今後の取り組みに注目です。



12月上旬、美しい青空が広がるクリア北京事務所前

→ 慣れたら戻れない!? キャッシュレス決済やEコマースの利便性

中国ではデジタル化が進んでいると聞いたことがありましたが、どの程度の利便性なのか、訪中前は疑問に感じていました。しかし訪中後、「スマートフォン」が生活するうえでの必需品であることを強く実感しました。

スマートフォンは、生活のあらゆる場面で、QRコードスキャンによるキャッシュレス決済のツールとして関わってきます。コンビニや観光名所の入場券売り場、自動販売機、露天商まで、QRコード決済ができないお店はゼロと言っても過言ではありません。一方で、国際ブランドのクレジットカードは使用できない場合が多く、例えば、ある日本の有名焼肉チェーン店でも日本で発行したクレジットカードが使用できませんでした。しかし、新型コロナウイルスの影響で、非接触型決済がより一層推奨されるようになっているので、クレジットカードの取り扱いについても今後の改善を期待しています。

また、中国ではEコマースが重宝されています。私は生鮮食品の購入時によく「盒马（フォーマー）」というスーパーのアプリを利用しますが、仕事帰りの電車の中で肉や野菜などの食材を注文しておく、最短30分で家まで無料で配達され、帰宅する頃には商品が届いています。直接目で見て選んでいないので、品質は必ずしも万全とは言えませんが、圧倒的な利便性に感心させられます。

→ おわりに

「住めば都」—北京で暮らし始めた頃、中国での生活に不安を抱いていた自分が自分に言い聞かせていた言葉です。今では、訪中前の先入観は少しずつ薄れてきています。これからの北京での暮らしを通して、中国のさらなる魅力に出会うことを楽しみにしています。